

# 平成20年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第7号（7月後半～8月前半）

平成20年7月17日  
島根県

### 予報の概要

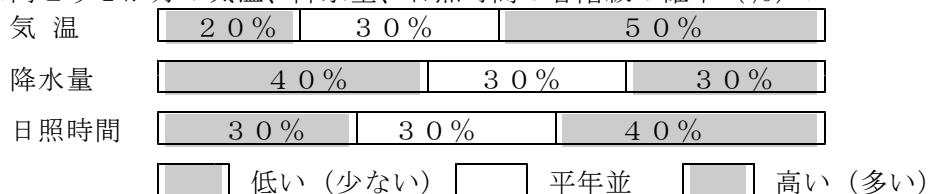
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない
		穂いもち	やや少ない
		紋枯病	やや少ない
		ニカメイチュウ	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い
		セジロウンカ	やや少ない～平年並
		トビイロウンカ	やや少ない
		コブノメイガ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	多い
		果樹	ナシ
		黒星病	やや多い～多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハダニ類	やや少ない
		アブラムシ類	やや少ない
	カキ	うどんこ病	平年並～やや多い
		チャノキアザミウマ	やや少ない
	果樹全般	カメムシ類	やや多い

中国地方1か月予報（7月12日～8月11日・広島地方气象台7月11日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の気温は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



※※ 7月16日中国地方は梅雨明けしました。 ※※

### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 7月16日現在、巡回調査地点における発生圃場率は10.0%（平年41.9%）、発病株率は5.0%（平年23.3%）とやや少ない。

② 感染好適日は、7月7日以降7月15日まで出現していない。

③ 向こう1ヶ月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

##### (2) 穂いもち

予報内容

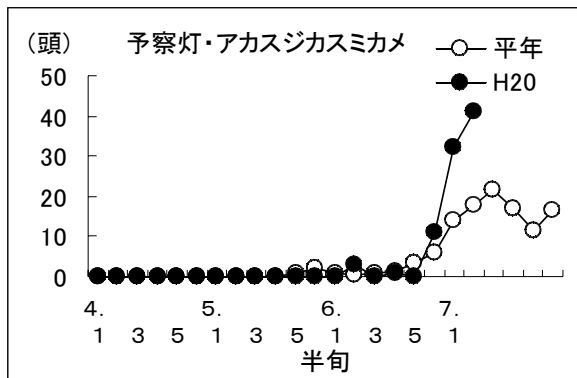
発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

- 予報の根拠  
 ①伝染源となる葉いもちの発生量はやや少ないと予想される。  
 ②向こう1ヶ月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①7月16日現在、巡回調査地点における発生圃場率は17.1%（平成32.6%）、発病株率は1.3%（平成5.0%）とやや少ない。  
 ②向こう1ヶ月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) ニカメイチュウ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べて少ない。  
 ②7月中旬の巡回調査では、発生圃場率、被害株率は平年に比べて少ない。  
 ③向こう1ヶ月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (5) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は1.2頭（平成3.3頭/50株）、発生圃場率は50%（平成41.8%）で発生量は平年並みである。  
 ②予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ③向こう1ヶ月の気象は本種の発生に助長的である。
- (6) セジロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない～平年並  
 予報の根拠  
 ①予察灯への初飛来は、出雲市で6月18～19日に認められた。7月中旬までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
 ②7月中旬の巡回調査では、成虫が0.1頭（平成6.6頭/50株）、圃場率は8.3%（平成66.3%）で発生量は平年に比べてやや少ない。  
 ③向こう1ヶ月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (7) トビイロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、7月中旬までに認められない。  
 ②7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- (8) コブノメイガ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、7月中旬までに認められない。  
 ②7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- (9) 斑点米カメムシ類  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 多い  
 予報の根拠  
 ①6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では発生量は平年並みである。主要種はホソハリカメムシ、アカスジカスミカメである。  
 ②予察灯へのアカスジカスミカメの飛来は、7月上旬までに88頭（平成47.4頭）で平年に比べて多い。  
 ③向こう1ヶ月の気象は本種の発生に助長的である。



B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月30日の巡回調査では、発病葉率は7.4%（平年8.7%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

① 6月30日の巡回調査では、発病葉率は1.1%（平年0.3%）であり、発生量が多い。

② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。

② 向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

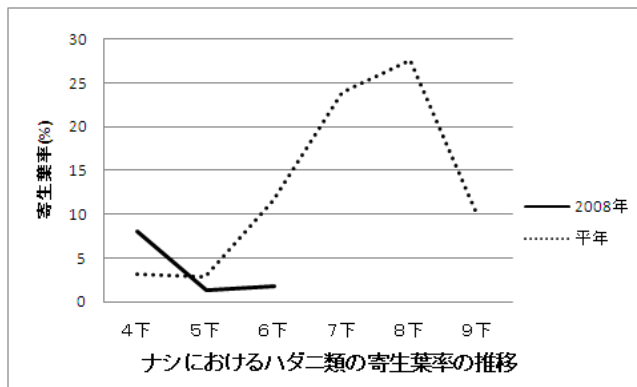
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生葉率1.7%（平年11.5%）でやや少ない。

② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



(5) アブラムシ類

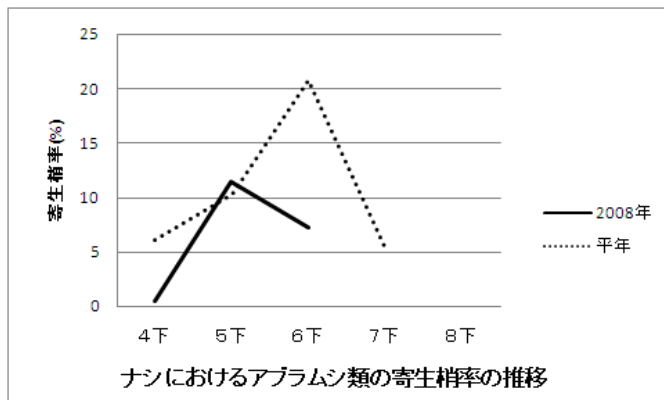
予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月巡回調査では寄生梢率7.3% (平年20.8%) でやや少ない。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下果樹栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 露地圃場に設置した予察灯での6月までの誘殺数は180頭 (平年238.7頭) で平年並みである。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生にやや助長的である。